

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 王喜の郷		
所在地	下関市王喜本町6-1-12		
電話番号	083-283-2834	事業所番号	3570101125
法人名	社会福祉法人 緑樹会		

訪問調査日	平成 21 年 2 月 6 日	評価確定日	平成 21 年 4 月 8 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	11 人	常勤 6 人 非常勤 5 人 (常勤換算 7 人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	～ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	30,000	円	敷金	無	円
保証金	無		円	償却の有無	無	
食費	朝食	150	円	昼食	400	円
	夕食	400	円	おやつ	50	円
その他の費用	月額	25,000	円			
	内訳	日常生活用品費10,000円、光熱水費15,000円				

(4) 利用者の概要 (1 月 10 日現在)

利用者数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
	要介護 1	0	要介護 4	3	
	要介護 2	1	要介護 5	1	
	要介護 3	4	要支援 2	0	
年齢	平均 86 歳	最低 79 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療 機 関 名	医科 周山病院、牛尾内科医院、カイクリニック 歯科 木村歯科医院
---------------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点) 職員は、利用者の思い出や活躍した経験などにゆっくり耳を傾け、ゆとりある介護がされており、利用者は笑顔のある穏やかな生活をされています。事業所は、利用者とかかりつけ医との関係を大切にし、密接な医療連携を取り、本人、家族の安心安全に繋がっています。 (特徴的な取組等) 日々の関わりの中から、利用者の変化や気付きなどを「生活リズムパターンシート」に記入し、職員は情報を共有して介護に反映しています。月2回「昭和レトロコンサート」を地域住民と共に行い、懐かしいレコードを聴いたり、歌ったり、お茶を飲んで利用者の大きな楽しみになっています。またその時間を活用して、認知症や高齢者を正しく理解する為の情報も提供しています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況) 評価結果については、職員会議や家族の会に報告しています。運営推進会議のメンバーについては警察署及び消防署の職員を増員する予定です。 (今回の自己評価の取組状況) 介護職員2名が中心になり検討し、管理者がまとめています。評価の意義を再確認し、また職員の考えも反映できています。 (運営推進会議の取組状況) 年2回開催で、メンバーは、地域包括支援センター職員、民生委員、婦人会長、第三者委員、利用者、家族で構成しています。4月に開催し、ホームの事業計画や状況報告をし、意見交換を行っています。「昭和レトロコンサート」に委員の参加もあり、事業所や地域への認知症の正しい理解を深め、3月の運営推進会議を意義あるものにする予定です。 (家族との連携状況) 毎月「王喜の郷だより」にホームでの暮らしぶりや、担当者の手書きを入れ、金銭明細と共に送付したり、家族の来訪時に手渡しています。3ヶ月毎に実施する家族の会では、利用者の日常生活の様子を記入した「生活リズムパターンシート」で説明し意見や要望を聞いています。 (地域との連携状況) 地域のイベントの夏祭り、文化祭、運動会に参加し、法人の合同の誕生会では婦人会や保育園児との交流があります。またチラシを回覧し、月2回「昭和レトロコンサート」を開催し、地域の人々と共に懐かしいレコードを聞き、歌を歌い、お茶を飲みながら楽しい一時を過ごしています。また認知症介護の情報提供やホームの紹介などして理解を深めています。
--

評価結果

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1 (1)	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域に密着したサービスのあり方を模索しながら介護をしているが、理念は「ここにありますが、いつも安心、楽しい生活」と開設当時のままで見直しはまだされていない。	○	・地域密着型サービスとしての理念の検討
2 (2)	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	事務室に掲示し、ミーティングで共有している。		
2. 地域との支えあい				
3 (7)	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の夏祭りや文化祭、法人の合同誕生会では、婦人会や保育園児との交流をしている。月2回「昭和レトロコンサート」を開催し、地域の人の参加を得て、懐かしいレコードを聴いたり歌を歌ったりして楽しく過ごしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
4 (9)	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価は全体会議や家族の会に報告している。自己評価は全員で検討する必要性は認識しているが、時間的に余裕がなく、職員2名が中心になり検討して管理者がまとめた。	○	・職員全員での取り組みの検討
5 (10)	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	4月に開催しており、メンバーは地域包括支援センター職員、民生委員、婦人会長、第三者委員、利用者、家族で事業実施状況を報告し、意見交換をしている。その後会議は休み、警察署、消防職員の協力要請をして、3月に2回目を実施する予定である。	○	・定期的な開催
6 (11)	○ 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の介護保険課などの関係部署と連携している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取 組みを期待 したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制				
7 (16)	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月発行のホーム便りで、暮らしぶりや担当職員のコメントを記入して、金銭出納状況と共に送付したり、家族の来訪時に手渡している。3ヶ月毎の家族の会で利用者の様子を「生活リズムパターンシート」で説明し、意見や要望も聞いている。		
8 (18)	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族の会で、意見や苦情を聞いている。相談苦情の受け付け窓口及び職員、第三者委員（2人）、外部機関、処理手続きを明確にしている。		
9 (20)	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	日中は職員4人体制で、行事や状況の変化に応じて勤務の調整をしている。法人内での兼務体制が組まれており、利用者の要望、夜間や緊急時も柔軟に対応できる。		
10 (21)	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の有休や希望休、悩み相談などで離職や異動を最小限に抑える工夫をしている。異動が生じた場合は夜勤の重複勤務を2～3回行いダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援				
11 (22)	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者は日常勤務の中で、介護技術の指導助言を行っている。外部研修は勤務の一環として、職員の希望を聞き受講しており、復命により全員が共有している。新人の場合計画的に研修が行われている。資格取得については、介護福祉士を目指す職員が多い。		
12 (24)	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会や、下関ブロック研修会に年3回2名ずつ参加している。見学やネットワーク作りを通じてサービスの質の向上に活かしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
13 (31)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に職員が自宅を訪問したり、ホームの見学をすることで徐々に馴染めるよう家族と相談しながら対応している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
14 (32)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は利用者の体験話などに、ゆっくりと耳を傾けるゆとりの介護をしており、穏やかな笑顔の生活に繋がっている。人生の先輩として、裁縫や野菜づくりなど教えてもらい、支えあう関係を築いている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
15 (38)	○ <u>思いや意向の把握</u> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、利用者の言葉や表情、動作などから本人の意向を引き出す努力をし、変化や気づきを「生活リズムパターンシート」に記入し、情報を共有して介護に活かしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
16 (41)	○ <u>チームで作る利用者本位の介護計画</u> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	本人家族に意見要望を聞き、ミーティングで検討して、それぞれのアイディアを反映した介護計画を作成している。	
17 (42)	○ <u>現状に即した介護計画の見直し</u> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間は原則6ヶ月であるが、生活リズムパターンシートから変化があれば、本人や家族と話し合い随時見直しをしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
18 (44)	○ <u>事業所の多機能性を活かした支援</u> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	かかりつけ医の受診の送迎、他施設や自宅訪問などの特別外出、入院中の見舞い等柔軟な支援をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
19 (49)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人家族の要望に添ってかかりつけ医を決め、受診方法や情報のやり取りについて話し合い、適切な医療が受けられるよう支援している。		
20 (53)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	出来るだけ早い段階から本人や家族、かかりつけ医と話し合い全員で方針を共有している。希望があればターミナルにも対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
21 (56)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	「接遇マナー」の研修で言葉のかけ方を学んでいる。特に友達や子供扱いの言葉、誇りを損ねるような言葉かけを注意を払っている。個人記録は事務室のロッカーに保管している。		
22 (59)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事時間を中心に1日の流れは決まっているが、それにこだわることなく、裁縫する人、ぬりえをする人、椅子に坐ってお喋りする人など一人ひとりのペースを大切にしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
23 (61)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	昼食と夕食は配食で、朝と日曜日の昼食はホームの手作りで、一緒に献立を考えたり調理、盛り付け、テーブル拭きを行い、皆で食べることが、利用者の大きな楽しみとなっている。		
24 (64)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は毎日14時～16時30分で希望にあわせ、声かけをしてゆったりと入っている。重度の利用者は午前中に入浴している。利用者の状態により清拭や足浴にも対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	掃除、食事の後片付け、台拭き、洗濯物たたみ、お茶だし等利用者の力を活かした役割、ぬりえ、裁縫、折り紙、散歩や買い物などの楽しみ事、気晴らしの支援をしている。月2回の「昭和レトロコンサート」は、地域の人と共に大きな楽しみの一つとなっている。	
26 (68)	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	周辺の散歩(週3回くらい)、食材やおやつの買い物、四季それぞれのお花見など戸外に出かける支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束禁止ポスターを掲示し、職員の啓発を行っている。日常の介護の中で、スピーチロックは職員同士で注意しあって、拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者の外出傾向を把握し、見守りをする事で日中は鍵を掛けないケアに取り組んでいる。玄関にはドアホーンが設置されて、外出を察知したら、一緒に出かけることもある。	
29 (78)	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止のためのマニュアルを作成している。ヒヤリはったりや事故報告書を整備して、全職員で原因を分析し、対策を検討して事故再発防止に取り組んでいるが、内容が事故報告のみでヒヤリはったりについての記載はされていない。	○ ・ヒヤリはったり報告書の記載と予防対策の検討
30 (79)	○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し、連絡網を整備している。救急救命や応急処置の研修を受け事故発生に備えているが、定期的な訓練は行っていない	○ ・初期対応の応急手当や定期的な訓練の実施
31 (81)	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	法人内合同で年2回避難訓練を実施し、利用者のリスク、避難経路、避難場所を確認している。地域にも協力の依頼をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
32 (84)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬は個人記録にファイルし目的、用法、用量、副作用について理解しており、服薬は手渡しして確認している。看護師が1週間分名前を記入し、誤薬の防止に努めている。変化があれば医師にフィードバックしている。		
33 (86)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	口腔ケアは朝夕2回声かけ、見守り、介助を行っており今後は昼食後も行う予定にしている。自力で出来ない場合、ケア用スポンジを使用している。歯ブラシや義歯は清掃し保管している。		
34 (87)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の摂取量は記録され、水分量は1日を通じて把握できるようにしている。バランスやカロリーは、法人の栄養士によりチェックされている。		
35 (88)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、うがい、手洗い、トイレや手摺りの消毒を実施している。法人の感染症対策会議で、流行時の情報や対策など研修して対応している。インフルエンザの予防接種は、全員受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
36 (91)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	食堂兼居間は、広々として明るく、野菜を切ったり配膳をする人などの音、動きがあり生活感が感じられる。昼食時間は快いバックミュージックが流れ、午後のんびりとソファーや椅子でくつろぎながら庭の犬や猫の様子を眺めている姿があり、穏やかな生活が感じられた。換気や温度にも気を配り、加湿器も設置している。		
37 (93)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具、自分の作品や家族の写真など持ち込まれ、家庭での生活が出来るだけ続けられるような、その人らしい居心地の良い居室となっている。		

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	社会福祉法人 緑樹会
所在地	山口県下関市王喜本町6丁目1番12号
電話番号	(083) 283-2834
開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (11月23日現在)

ユニットの名称	グループホーム王喜の郷			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名	
	要介護1	0	要介護4	1
	要介護2	1	要介護5	1
	要介護3	6	要支援2	0
年齢構成	平均 86 歳	最低 79 歳	最高 94 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	中心になる介護職員を2名選んで互いに勤務が重なるときに出勤の職員同士で話し合いを行いまとめた。皆で集まってという形をとることが困難であった。職員の考えは反映できたと思う。
評価確定日	平成 21 年 1 月 20 日

【サービスの特徴】

開設以来の常勤職員が4名いるのでかなり困難な認知症の利用者も受け入れる事ができていると思われる。処遇困難な本人への介護もさりながら他の入居者に不安感を与えないように常に気を配っている。集団介護において入居者間のバランスを取りながら次第次第に新しいメンバーを受け入れ馴染んでいただく困難さをかなり克服したと思う。職員にゆとりある介護が最善の介護だと管理者は考えている。1ユニットでこれを行おうとすると否応無く年数を重ねると人件費に押されてしまう。それを調整しつつゆとりと入居者の笑顔を守りながら楽しく生活して行きたいと思っています。

自 己 評 価 票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印・(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「ここにあります、いつも安心、楽しい生活」という理念を作成している。	
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	利用者の”できる力”を見極め、大切にしながら支援している。	
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ったりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	王喜の夏祭りや公民館で行われる文化祭に参加したり、ケアハウスの合同誕生会では、ボランティアで参加される婦人会の方達や保育園の園児達と交流している。また月に2度、昭和レトロコンサートにて地域の方と交流している。	
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	月に2度、昭和レトロコンサートにて地域の方々に来て頂き、介護保険や施設説明を行ったり、相談等をお受けしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
9	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員間でのミーティングや家族会で外部評価についての報告や話し合いをし、改善に取り組んでいる。		
10 (5)	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。		○	
11 (6)	○ 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の関係部署と連携している。		
12	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	権利擁護事業や成年後見制度に対して研修等に参加し実践できるようにしている。		
13	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待に対しては介護の方法について互いに話し合っ て虐待にならないように行っている。該当すると思われる場合には家族の同意を得て文書にて方法を明示して行っている。		
4. 理念を実践するための体制				
14	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居や退居される際は、十分な説明を行っている。入居時には、重要事項説明書や契約書に基づき、説明している。退居時には、契約に基づいて行うと共に、その決定過程を明確にし、入居者や家族に十分な説明を行った上で、安心して退居先に移れるように支援している。		
15	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。			
16 (7)	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月グループホーム便りに、担当職員が利用者の状況や金銭出納状態を個別に送付したり、来訪時に渡している。また来訪時には、暮らしぶりを伝えたり、行事の案内等も伝えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じて、または家族会にて開示を行っている。		
18 (8)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族会で意見を聞いている。意見箱を玄関先に設置している。相談・苦情については、受付窓口、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理の手続きも明確にし何事も前向きに受け止め、運営に活かしていくことに努めている。		
19	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。			
20 (9)	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	兼務者を含め、常勤6人、非常勤5人で、職員3人体制を確保し、利用者の要望や状況の変化に対応している。有給休暇の他に月3日程度の希望休があり、職員の相互で話し合い勤務調整している。		
21 (10)	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	やむを得ず職員の異動や離職が生じた場合は、早急に対処し利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援				
22 (11)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	日常業務の中で、認知症高齢者に対する介護技術の指導や助言を行っている。また、勤務の一環として外部研修を受けている。		
23	○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	20代～60代と、年代も様々で、准看護師や栄養士、介護福祉士、ホームヘルパー等、資格を持った職員を配置している。		
24 (12)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会等の研修に参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。			
26	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。			
27	○職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居前に職員が、自宅を訪問し、本人と話をする機会を作っている。また、ご家族と見学に来られる事もある。		
29	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居前に見学に来られる事が多く、その時に話を聞く機会を作っている。		
30	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。			
31 (13)	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居の際、ご家族に生活歴等のシートを渡して記入して頂き、徐々に馴染めるよう、相談しながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者は、人生の先輩として接し、裁縫や草取り等で教えてもらう事もある。和やかな生活が遅れるよう声掛けをし、お互いが支えあう関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○ <u>本人を共に支えあう家族との関係</u> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人の誕生日、お花見等と一緒に参加して頂くように声掛けしている。通院、体調の変化がある場合もお願いしている。		
34	○ <u>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</u> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人と家族、それぞれの方とより多くの会話を持つことで、理解に努めている。		
35	○ <u>馴染みの人や場との関係継続の支援</u> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。			
36	○ <u>利用者同士の関係の支援</u> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者間では、合わない関係の時も出てくるのでその時々、関係を見極めながら努めている。		
37	○ <u>関係を断ち切らない取り組み</u> サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。			
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	○ <u>思いや意向の把握</u> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、言葉の表情から本人の希望を引き出す努力をしている。		
39	○ <u>これまでの暮らしの把握</u> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に家族に教えて頂くようにしている。		
40	○ <u>暮らしの現状の把握</u> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活リズムパターンシートを利用して細かい気づき等を出来るだけ記入するようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
41 (16)	○チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、介護計画を作成している。		
42 (17)	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	6か月の見直しを原則とし、計画の見直しをしている。その際、可能な限り現時点での利用者の状況、本人や家族の要望に応じて新たな計画を作成している。		
43	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のパターンシートに気づきを記入し、ケース記録から介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
44 (18)	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	かかりつけ医の受診、他施設や自宅訪問等の外出や送迎の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
45	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要に応じて民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と連携しながら支援している。		
46	○事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している（認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等）。	見学、研修等の受け入れは行っている。		
47	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他の介護支援専門員やサービス事業者との連携をとっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。			
49 (19)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族等の希望を聞きながら、それぞれのかかりつけ医との関係を築いて適切な医療が受けられるようにしている。		
50	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関にて診断や治療が受けられるように支援している。		
51	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者をよく知る看護職員に相談しながら日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入退院の状況や変化について、病院関係者や家族と相談し検討している。		
53 (20)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期のあり方について出来るだけ早い段階から本人や家族、かかりつけ医等と話し合い、全員で方針を共有している。		
54	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるための検討や準備を行っている。		
55	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	
57	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の希望が出せるように働きかけたり、本人に分かるように説明を行い、納得しながら暮らせるよう支援している。	
58	○“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	利用者の”できる力”を見極め、大切にしながら支援している。	
59 (22)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	裁縫をする人、塗り絵をしたい人...とそれぞれに楽しめるが、共同の物を作る時等は協力をお願いする。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の希望を聞きながら、望みどおりに行えるよう努めている。また今までの美容院を利用し続けられる方もある。	
61 (23)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付け、片付け、テーブル拭き等を共に行っている。日曜日の昼食は献立を一緒に考えて調理している。	
62	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	可能な限り楽しめるよう支援している。	
63	○気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンシートを利用し、失敗のないよう気持ちいい排泄の為の支援をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	14:00～16:30の間に、希望のタイミングに合わせて楽しめるようにしている。重度の方は午前中に行っている。		
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	居間のソファで居眠りをされたり、居間でゆっくり休まれたりそれぞれが休息できるよう声掛けしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	塗り絵、裁縫、お茶等得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう支援している。歌の好きな方は、そこから声の輪が広がることもある。		
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理は、事務所で行っている。		
68 (26)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	事業所周辺を散歩したり、スーパーへの買い物や季節ごとの花見に出かけている。		
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	取り組みを検討しているが、実施していない。	○	出来る限り実施出来るように、支援していきたい。
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の希望がある場合は、対応している。		
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	馴染みの人たちが気軽に訪問できるよう居室や居間を利用して過ごして頂いている。		
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	希望のある時は、いつでも対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	月2回の昭和レトロコンサートに参加される方もある。年4回の家族会は、殆どの家族が参加されている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
74 (27)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束禁止ポスターを掲示している。職員は、スピーチロックやドラッグロックを正しく理解し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75 (28)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は、利用者の所在や様子を把握し、夜は、巡視し、安全に配慮している。		
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬等、誤飲の可能性のある場所には鍵を付けている。危険な物品に関しても、職員の目の届く範囲で使用している。		
78 (29)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット報告書、事故防止報告書に記録し、原因・分析・対策を検討し、それを全職員で共有し、家族に報告している。		
79 (30)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時のマニュアル、連絡網を整備している。普通救命講習を受講しており、緊急時の対応や応急処置の研修を受講し、研修内容を復命し、共有している。		
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	報告書をまとめると共に、対策を職員で検討して実行している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	利用者と一緒に隣接のケアハウスと合同で避難訓練を実施して、避難させる順番、経路、場所を確認し、職員は消火器の使用法も訓練している。近隣の協力を得られるよう声かけしている。		
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の記録の中の気付きに細かく記入し、変化を職員間で話し合いながら、看護師を中心にしてかかりつけ医と相談して対応している。		
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	服薬の目的、副作用の各人の資料は、健康ファイルにとじて、情報を共用し、変化の確認に努めている。服薬は必ず手渡しし確認している。		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	職員は、便秘による影響を理解しており、予防と対応のため飲食物を工夫したり、身体を動かすことを促したりしている。		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	口腔ケアは、朝・夜の2回行っており、見守り、介助とそれぞれ必要な支援をしている。自力で出来ない方は、口腔ケア用のスポンジを使用している。歯ブラシの清掃、保管は、職員が必ず行っている。		
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態に応じて支援している。摂取量も毎食記録し、体調と同時に考慮している。水分量も1日を通じて把握できるようにしている。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	うがい、手洗い、アルコール消毒等で衛生に気を付けると共にマニュアルを作成して対応している。インフルエンザの予防接種は、利用者と職員、全員が受けている。		
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所、調理用具は食洗機を使用し、熱処理している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。			
91 (36) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	食堂に集まって来られるので、別のスペースにソファを置いて居場所を確保している。台所から食べ物の匂いがしてきたり、音楽が聴こえたり、外の景色や空の色が見えることで、季節感を感じてもらえる様にしている。		
92 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間のスペースに椅子が2か所あり、それぞれの思いで違った空間が持てるようにしている。		
93 (37) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際に、今まで利用されていた馴染みの物を用意して頂くようにしている。		
94 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	利用者とともに掃除をする時に窓を開けるようにしている。温度は高過ぎず、低過ぎず配慮し、加湿器の利用もしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	廊下、トイレ、浴室の手すりによって自力で出来るよう工夫している。浴室には、床と浴槽に滑り止めマットを使用している。		
96 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの出来る事と出来なくなって来た事を職員が把握し、混乱や失敗のないよう工夫している。		
97 ○建物の外周りと空間の活用 建物の外周りとベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭にテーブルと椅子があり、外で運動をしたり、歌ったりする事が出来る。また天気の良い日は、ベランダでのお茶の時間を持つことが出来る。		

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1／3くらいの	②利用者の2／3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1／3くらいと	②家族の2／3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1／3くらいが	②職員の2／3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1／3くらいが	②家族等の2／3くらいが ④ほとんどできていない